

平成27年度

高等学校における

多様な学習成果の評価手法に関する調査研究

研究成果報告書

愛知県教育委員会

平成28年3月

はじめに

本研究は、平成25年に文部科学省が公募した委託事業「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」を、愛知県教育委員会が受託したことを受けて、当センターと県立高等学校5校（愛知県立惟信高等学校、愛知県立日進西高等学校、愛知県立一宮南高等学校、愛知県立吉良高等学校、愛知県立蒲郡高等学校）との共同研究として取り組んできた事業であります。

当時、中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会では、社会で自立し、社会に参画・貢献する人材を育成する観点から「学力の三要素」とともに、「社会・職業への円滑な移行に必要な力」や「市民性」などの幅広い資質・能力（＝コア）を、全ての高校生に共通して身に付けさせることが必要であると議論されており、国はこうしたことを背景に本研究を立ち上げました。

本県では、コアのうち課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、主体的行動力、構想力、コミュニケーション能力の育成に向けて、学習到達目標を明確にしたパフォーマンス課題やルーブリックを作成すること、これらによる評価手法の妥当性・信頼性を高めることを目指し、研究に取り組んでまいりました。

研究を進めるに当たっては、専門家からの助言が不可欠であることから、愛知県教育委員会の指導の下、評価手法検討会議を開催し、教育学、教科教育、キャリア教育等を専門とする先生方から御指導いただき、研究上の課題についてさまざまな協議を行ってきました。また、研究を深めるに当たっては、当センターでの研究協議会において、各学校の具体的な授業や評価の実践について大学の先生から御指導をいただきながら、研究校の先生と所員との間で協議を行いました。

こうした大学との連携を踏まえた協働的な取組により、大変充実した研究となりました。本研究が成果を上げていることは、5校の取組が、平成27年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会第4回教育課程企画特別部会における資料として用いられたり、新聞や雑誌において度々紹介されたりしていることから明白であります。これもひとえに、各学校が校内研究委員会や教科会を充実させ、組織的に研究に取り組んでいただいた賜物であります。

最終年度に当たる本年度は、11月27日（金）にセンター研究発表会、10月から1月にかけては各学校で公開研究授業・研究発表会を行ってまいりました。県内の高等学校だけでなく、遠方の高等学校、近隣の中学校、自治体からもたくさんの方が参加するなど、いずれも成果の普及・還元に資するものであったと確信しております。御指導をいただいた先生方と、忙しい学校の業務の中で、熱心に成果を上げていただいた研究校の先生方には、厚く御礼を申し上げます。

本報告書は、第Ⅰ部で研究の概要について記述した後、第Ⅱ部の理論編で評価手法検討会議の座長を務める名古屋大学大学院教育発達科学研究科の柴田好章教授から各学校における取組に対する提言を、愛知教育大学教育学部学校教育講座の高綱睦美講師から本研究を進める上でのキャリア教育からみたポイントを、分かりやすく記述していただきました。そして、第Ⅲ部の実践編で5校での取組について具体的に紹介しております。

ぜひ、各学校における授業及び評価の改善に、本報告書をお役立ていただければと存じます。

愛知県総合教育センター
所長 磯谷 和明

目 次

はじめに

第Ⅰ部	研究の概要	1
第Ⅱ部	理論編	15
第Ⅲ部	実践編	23
	愛知県立惟信高等学校の取組（外国語(英語)科)	23
	愛知県立一宮南高等学校の取組（理科)	47
	愛知県立日進西高等学校の取組（国語科)	71
	愛知県立吉良高等学校の取組(地理歴史科, 公民科)	95
	愛知県立蒲郡高等学校の取組（数学科)	119

おわりに